

夏季の暑熱ストレスが採胚成績および採取胚の受胎性に及ぼす影響

畜産研究センター

稲谷憲一、木下政健、岡幸宏、戸田広城

夏季の高温環境下における採胚時の暑熱ストレスが採胚および胚移植に及ぼす影響を明らかにするため、平成13年～平成19年度に実施した271回の採胚成績、および709個の緩慢凍結胚の移植成績について調査を行った。その結果、7～9月に実施した採胚($n=67$)の回収胚数、正常胚数、およびCode1胚数は、 6.8 ± 5.5 、 4.3 ± 4.6 、 3.3 ± 3.6 個であったのに対し、それ以外の月に実施した採胚($n=204$)では、それぞれ 8.0 ± 6.7 、 5.4 ± 5.4 、 4.2 ± 4.5 個であった。また、7～9月に採取された胚の受胎率は43.2%、それ以外の月は44.9%であった。以上のことから、暑熱ストレスを受ける時期であっても採胚成績に影響はなく、また、その時期に採取された胚であっても、採取時の品質が高いもの(Code1)については、他の時期に採取されたものと同程度の受胎率が得られることが明らかとなった。